

福井県優良図書

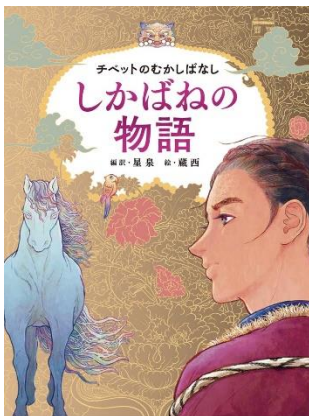
令和6年6月分

○ロッタの夢 オルコット一家に出会った少女
ノーマ・ジョンストン // 作 谷口由美子 // 訳
平澤朋子 // 絵【小学校高学年～】



岩波書店 ¥968 (税込み)

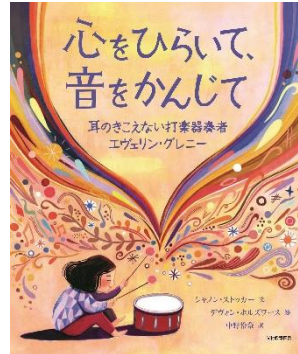
○チベットのむかしばなし しかばねの物語
星泉 // 編訳 蔵西 // 絵
【小学校高学年～】



のら書店 ¥1,760 (税込み)

19世紀半ばを舞台にドイツから移民としてアメリカにやってきた少女ロッタが、オルコット一家に出会うことで新しい生活のスタートを切るというドラマチックな物語です。ロッタが暮らしていた環境は、非常に厳しくつらいことの多い日々が描かれています。しかし、その中で必死に学ぼうとする姿や、いつも家族のことを考え大切にすることに、言葉では言い表せないほどの感銘をうけることでしょう。様々な年代の方に読んでほしい1冊です。

○心をひらいて、音をかんじて 耳のきこえない打楽器
奏者エヴェリン・グレニー
シャノン・ストッカー // 文 デヴォン・ホルズワース // 絵
中野怜奈 // 訳【小学校高学年～】



聴覚に障害を持ったエヴェリン・グレニーの生き方を、同じく難病をわずらう作者が描いた念いがあふれる絵本です。打楽器との出会いと、ロン・フォーブス先生の言葉で、どんどん彼女の可能性は広がっていきます。「だれにもたくさんの可能性があり、どんな時でもどこかに道は見つかります」という作者の言葉に大きな勇気をもらえます。自分の心の声を聴き、自分を信じることで、自分を大事に、自分にむきあうことへの力をもらえる作品です。

光村教育図書 ¥1,760 (税込み)

○そして、あの日 エンリコのスケッチブック
リンデルト・クロムハウト // 作 アンネマリー・ファン・
ハーリンゲン // 絵 野坂悦子 // 訳【小学校高学年～】



イタリアの架空の村を舞台にした物語で、前半は村の日常風景、後半は大地震が起きた後の一変した生活状況を描いています。エンリコの視点を通して、市井の人々の考え方や価値観を浮かび上がらせる手法は秀逸で、読んでいて大きな学びにつながるかと思います。日本においても、地震などの自然災害は他人ごとではなく、大災害の前と後の暮らしを描くという事で、同世代の子ども達にとってはとても意義ある作品であるといえます。

岩崎書店 ¥1,540 (税込み)

○一年一組せんせいあのね
こどものつぶやきセクション
鹿島和夫 // 選 ヨシタケシンスケ // 絵
【小学校低学年～】



理論社 ¥1,650 (税込み)

子どもたちの素朴な疑問や気づきがふんだんに盛り込まれ、次はどんな作品なのか、と一気読みしてしまいました。特に、家族や先生ら身近な人への観察眼が鋭く、大人にとって我が身を振り返るきっかけにもなるでしょう。神戸市の先生だった選者が、当時受け持っていた1年生と交換日記をしていた中からセクションした1冊とのことです。絵も解像度抜群で、文と合わせて観賞すると、場面場面の様子、空気感が伝わってきて味わい深いものがあります。

○ぼくは本のお医者さん
深山さくら // 文
【小学校低学年～】

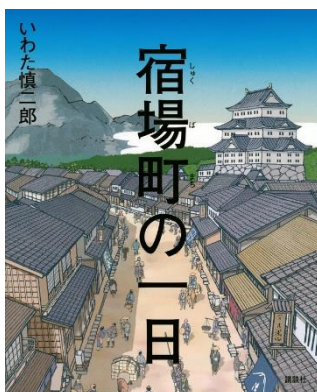


佼成出版社 ¥1,540 (税込み)

本の修理をする”ブックドクター”としてこれまで5千冊以上の本を直してきている齋藤さんという方の歩みが描かれています。本の部位の名称や、製本の過程など図解もあつたり、分かりやすく説明してあります。新たな絵本との出会いから、自らその技術を習得していく過程のほか、持ち主の思いに寄り添う気持ちも丁寧に描かれています。

本を大切に扱う気持ち、物を大切にすることも教えてくれる一冊です。

○宿場町の日
いわた慎二郎 // 作・絵
【小学校低学年～】



講談社 ¥1,650 (税込み)

最近、偉人を題材にしたテレビ番組が放送されており、歴史で大きく時代が変わると、ものの値段や暮らしが異なることが、より身近に解ります。この「宿場町の日」はその子供バージョンのように読めます。遠い昔の江戸の暮らしがより身近に感じられます。わかりやすい絵と解説が秀逸です。

○ぼくらはたけ
マーガレット・ワイズ・ブラウン // 作
イーディス・サッチャー・ハード // 作
ガートルード・エリオット // 絵 木坂涼 // 訳 【幼児～】



好学社 ¥1,650 (税込み)

雪が溶けて春になったら畑を耕します。ハツカダイコンなどの種をまき、トマトの苗や、芽のでたジャガイモを植えていきます。お日さまや雨や風、虫たちや鳥や動物たち、四季とともに野菜たちが育っていきます。人が手を加え見守り収穫を迎えます。この絵本は70年以上前に生まれましたが、どこかなつかしいだけでなく、畑や土にふれたくなるような気持ちにさせてくれます。子どもたちが素直に四季の畑ごとや収穫の喜びを疑似体験できると思います。

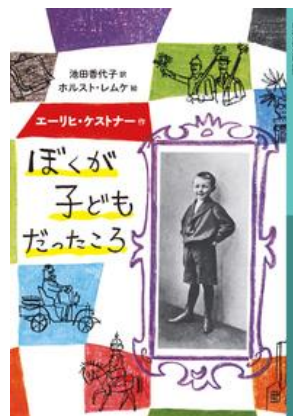
○ニワシドリのひみつをもとめて
ものづくりする鳥のふしぎをさぐる旅
鈴木まもる // 著
【小学校中学年～】



理論社 ¥1,650 (税込み)

子どもの頃、図書館で出会った「ものづくりする鳥」の写真を見て、「なんでこんなものをつくるんだろう？」その時抱えた謎です。少年は大人になり絵本作家となり「ニワシドリ」が作る「アズマヤ」を解明して、絵本にまとめようと思い立ち、秘境へ旅立ちます。自然あふれる土地土地で取材を進めるうち「アズマヤ」への考察は深まっていきます。イラストたっぷりのハラハラドキドキの読んだら旅に出たくなる冒険記です。

○ぼくが子どもだったころ
エーリヒ・ケストナー // 作
ホルスト・レムケ // 絵 池田香代子 // 訳
【中学生～】



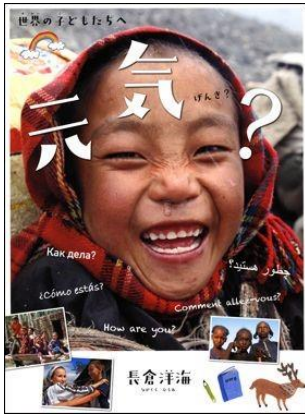
岩波書店 ¥968 (税込み)

貧しい家に生まれたひとり息子は両親の愛情を受けて育ち、働きづめの母を懸命に支えます。好きな体操や学びのこと、クリスマスの話に徒歩旅行、たくさんのエピソードでエーリヒ・ケストナーの人となりが分かる本です。言い回しなど文章はおもしろいと言えます。「おっと、本筋からはずれるところだった」が、この本の決まり文句だと気づいた時には、数えていればよかったと思うぐらい、脱線するのが好きな作者のようです。

福井県優良図書

令和6年10月分

○元気？ 世界の子どもたちへ
長倉洋海 // 著
【小学校高学年～】



世界の紛争地や境界の地を取材するカメラマンが、いろいろな土地で出会った子どもたちを紹介している本です。厳しい自然や内乱など、とても過酷な境遇の中で生活している子どもたちもたくさん出てきます。そういった中でも、楽しみを見つけて、たくましく生きている様子が、笑顔の写真と、温かい文章から伝わってきます。遠い国の子どもたちの笑顔を通じて、世界に関心が広がり、様々な問題を身近なものとして考えるきっかけになりそうな本です。

朝日新聞出版 ¥3,300 (税込み)

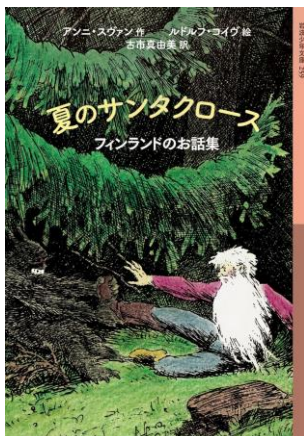
○アマゾンのふしぎな森へようこそ！
先住民の声に耳をすませば
南研子 // 著 【小学校低学年～】



日本から2万キロ離れた南半球に位置するアマゾンの森の中。先住民たちの暮らす森には、地球上にいる生き物の半分以上の種類が生息しています。電気もガスも水道もない、お金は通用せず、文字もないけれど、感じる力を頼りに人びとは豊かな文化を受け継ぎます。しかし、今この森は、人間がつくりだす文明により、猛スピードで消滅が進んでいます。自分以外の人々、自然や生物に目を向け新たな考えをもち、自然、環境、地球について考え動き出すきっかけになったらいいなと思います。

合同出版 ¥1,980 (税込み)

○夏のサンタクロース フィンランドのお話集
アンニ・スヴァン // 作 ルドルフ・コイヴ // 絵
古市真由美 // 訳 【小学校低学年～】



遠く離れた北欧フィンランドが舞台。自然に住む生き物やこびとたち、サンタクロースと子供たちのやり取りの場面は、心情に寄り添う言葉で紡がれ、お話の森に引き込まれていく。素直で頑張り屋の主人公たちは、苦難に直面しても、あきらめず挑み続ける。そして傍らには、優しく見守り、支えてくれる仲間や大人の存在がある。現代の子供たちが、この一冊に出会い、自らの未来に希望を抱き、可能性を見出すきっかけになったら願う。

岩波書店 ¥891 (税込み)

○名探偵ホームズが生まれた日
リンダ・ベイリー // 文 イザベル・フォラス // 絵
千葉茂樹 // 訳 【小学校中学年～】



本書は、探偵小説「シャーロック・ホームズ」の作者、アーサー・コナン・ドイルの伝記絵本である。アーサーは、次々とホームズの物語を書き続けることが苦しく、ホームズを消すことにしたのだが…。仕事でも趣味でも様々な挑戦をした波乱万丈の人生だった。「人生はチャレンジ、やってみたことに無駄はない。」「想像力と好奇心は、創造を生む。」等々、ユーモラスな文と絵から、大人も子どもも、たくさんのことを感じられる本である。

光村教育図書 ¥1,870 (税込み)

○ひこうきにのろう
バイロン・バートン // さく
なかがわちひろ // やく 【小学校低学年～】



飛行機に乗る時の空港や機内の様子が分かりやすく描かれています。シンプルな文章と鮮やかなイラストで、飛行機に乗るワクワク感が伝わってきます。初めて飛行機に乗る子どもたちに、親子で一緒に読んで、乗る前の予習として楽しんではいかでしょうか。元が1982年の絵本で、描かれた設備など少々古く感じますが、数十年経った今も基本的なところは変わらないところが興味深い点でした。

好学社 ¥1,650 (税込み)

○わたしたちのケーキのわけかた
キム・ヒョウン // さく おおたけきよみ // やく
【小学校低学年～】



食事をする時に、食べ物を5人兄弟姉妹で分けることは難しい。物や時間、何でも5つに割る日々の生活の中で、アクシデントにより、独り占めできる嬉しさや、素敵な風景を見たり、おいしい物を食べた時、誰かのことを思い出したり、分け合いたいと思う家族の日常物語。形も味もまちな日々の小さな物語を、絵本に準じてわかりやすいという作者の思いが伝わりとても愉快で、ほのぼの、ほんわか幸せな気持ちになる絵本です。

偕成社 ¥1,650 (税込み)

○人類の夢をかなえた飛行機の本
ヒサクニヒコ // 絵・文
【小学校中学年～】



子どもの未来社 ¥3,300 (税込み)

飛行機の進化には戦争と密な関係があり、戦争によって飛行機の性能が向上し、そのことが歴史の中で繰り返されてきた事実が時系列に描かれています。尊い命と引き換えに、飛行機が進化してきたという事実は読者の胸を熱くし、考えさせられるものがあります。

作者の知識と魅力的なイラストで描かれており、分かりやすい文章で、しかも総ルビなので小学生でも一気に読み進められると思います。

○海辺の村のパン屋
ポーラ・ホワイト // 作
いけださちこ // 訳【小学校中学年～】



BL 出版 ¥1,760 (税込み)

主人公のぼくは、りょうしになりたいと思っていたが、お父さんがパン屋であることに疑問を持ち、お父さんと話し合ったりする中で、パン屋の仕事の大切さに気づき、パン屋になって人々の役に立ちたいと思うようになる。

人々の生活と、はたらくことの結びつき、仕事の本当の意味を教えてくれる本である。挿絵も、イギリスらしい落ち着いた色使いで小さな村の情景をよく描いている。子どもたちに一度は手に取ってほしい一冊である。

○図書館のぬいぐるみかします
わたしのいるところ

シンシア・ロード // 作 ステファニー・グラエギン // 絵
田中奈津子 // 訳【小学校中学年～】



ポプラ社 ¥1,430 (税込み)

アンが子どもの頃、誕生日にもらった人形、アイビー。アンが成長するにつれて一緒に遊ばなくなり、やがて箱に片付けられてしまいます。アンが大人になったある日、アイビーは箱から出され、本のように借りることのできる図書館のぬいぐるみ〈ブック・フレンド〉になり、物語が展開していきます。

登場する子ども達がぬいぐるみと出会い、ふれ合うことで、抱えている思いや悩みと向き合うきっかけとなり、成長していく心あたたまる物語です。ぬいぐるみを大事にしたいと思いますよ。

○ネコになりたかったクモのルイージ
ミシェル・ヌードセン // さく
ケビン・ホークス // え 福本友美子 // やく【幼児～】



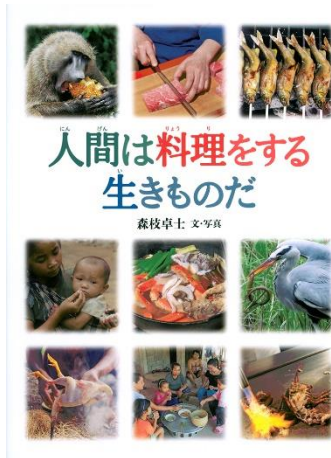
岩崎書店 ¥1,870 (税込み)

クモのルイージがネコになりたかったのは、ネコがほしかったベティおばさんのため。自分がクモと分かっていないおばさんのため、ルイージは好きなことも少し我慢して、一生懸命にネコのふりをします。でも実は…。ベティおばさんは、ルイージがクモなんだっていうことを、とつくにわかっていました。「お互いが相手のことを思いやる」気持ちはもちろんのこと、「自分は、ありのままの自分でいいんだね」という気持ちにも気づかせてくれる、そんな温かいストーリーです。

福井県優良図書

令和7年1月分

○人間は料理をする生きものだ 森枝卓士 // 文・写真 【小学校低学年～】



福音館書店 ¥1,540 (税込み)

人間も動物の一種ですが、本書を通じて「料理」という視点から人間と他の動物との違いについて改めて考えさせられました。私たちは生まれた時から料理を食べることが当たり前になっていますが、本書を読むことでその「当たり前」が実はとても特別なことであると気づかされます。

美しい写真や世界各国の料理が紹介されており、子どもたちと一緒に料理を楽しみたいくなる一冊です。料理のすばさを再認識するとともに、日常の中に隠れた人間の工夫や進化に感動しました。

○ねえねえ、きょうのおはなしは…… 世界の楽しいむかしばなし 大塚勇三 // 再話・訳 PEIACO // 画【小学校低学年～】



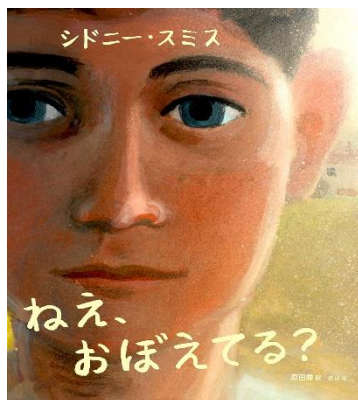
福音館書店 ¥1,210 (税込み)

日本の子どもたちに世界の楽しい昔話「グリムの昔話」や「ノルウェーの昔話」を翻訳出版なさった故大塚勇三さん。大塚さんがこれまでに雑誌や単行本で子どもたちに紹介した、世界各国の昔話の数々の中から20話を選び刊行された一冊となっております。

一般的な絵本のような挿絵はありません。読みながら自分でその状況、風景や登場人物の顔、服装などを想像しながらそのお話の世界に入り込める作品となっております。

様々な世代の方に読んで欲しい良書だと思います。

○ねえ、おぼえてる？ シドニー・スミス // 作 原田勝 // 訳 【小学校低学年～】



偕成社 ¥1,760 (税込み)

お母さんと子どもが、「ねえ、おぼえてる？」と以前に住んでいた町での思い出を振り返ります。お父さんとお母さんと子ども、3人での楽しい生活が、ほんのりとした色彩の絵の中に浮かび上がります。

その後、お母さんと子どもが二人でこの町に来ることになったいきさつはわかりません。子どもは、お母さんと二人の生活になっても、前を向こうとしています。

安心できる環境で、子どもが健やかにくらすことを祈りたくなる本です。

○こどもベヤのよる 出久根育 // 文・絵 【幼児～】



岩波書店 ¥1,320 (税込み)

こども部屋に夜がきて、起きているのは、いっちゃんだけ。まっ暗の夜にのみこまれないよう、ふとんをすっぽりかぶって息をひそめる。

表題作「こどもベヤの夜」ほか2話で構成。夜に不安を持つお子さん、寝かしつけに困っている親御さんに助けとなるだろう。

絵が東欧を思わせる雰囲気でも幻想的である。

想像力を揺さぶられる物語展開で小学生高学年でも楽しめるのではないかな。

○わたしを描く

曹文軒 // 作 スージー・リー // 絵
申明浩・広松由希子 // 訳【小学校高学年～】



娘のウロを絵かきにするために、父は絵を教え、有名な絵描きを先生に絵を習わせていた。そんななか父は、ウロに自画像を描くことを勧める。

ウロが選んだキャンバスはウロと同じ名前の「雨露の麻」のキャンバス。そのキャンバスに描かれた自画像は、両親と共に満足していた。ところが朝になると自画像に変化が…。何度もくり返し描き直ししながら、自分を見つめ直すことに気づかせてくれる成長の一冊。

あかね書房 ¥1,980 (税込み)

○ともだち

椰月美智子 // 作
【小学校中学年～】



仕事で忙しい母さんとの2人暮らしのジュン。6年1組のクラスメイトは幼なじみのルイ、スポーツの得意なシン、隣の席のスカイたち。みんなで夢中になった運動会をはさんでいろんな事件や出来事が起きます。

子どもたちの生活や家庭環境が見え隠れします。そして最終章の卒業式、卒業証書授与で初めて明かされるフルネーム。名前を見ながら登場した前のページを確認したくなってしまいます。今の時代を輪切りにしたような作品です。子どもにも親にも勧めたい一冊です。

小学館 ¥1,430 (税込み)

○うまれたよ!ヤモリ

関慎太郎 // 写真・文
【小学校低学年～】



最近あまり見かけなくなってしまうけれど、誰でも一度は見たことがあるヤモリ。身近な存在だけど、その生態は知らないことばかり。おかあさんやモリがカルシウムをためて卵を産むこと、卵は2つ、産む場合は必ず同じ場所で寿命は5年。卵の殻を突き破って出てきたあかちゃんヤモリが、誰にも教わることなく獲物を捕るということに驚いた。

蛾やクモを食べる写真にはかなりびっくりするけれど脱皮の様子は興味深いものがある。生態を知るには面白い本だと思う。

岩崎書店 ¥2,640 (税込み)

○ぼくのねこポー

岩瀬成子 // 作 松成真理子 // 絵
【幼児～】



道徳の教科書に載せたい物語。迷い猫と出会って、飼いたくなってしまった少年の物語です。猫への愛しさが増していく描写。母親がひろい猫を飼うことに反対するのではないかと、ためらう心理描写など言葉にしてあり、気持ちの変化が物語られています。

自分の気持ちを自覚したり、それを言葉にしたり、表現して誰かに伝えたりすることを学習するのに良い素材であると感じました。

PHP 研究所 ¥1,430 (税込み)

○アンリくん、どうぶつだいすき

エディット・ヴァシュロン // 文
ヴァージニア・カール // 文・絵 松井るり子 // 訳
【幼児～】



アンリくんとねこのミシェルくん、仲良しふたりは汽車に乗っておばさんの農場へ遊びに出かけます。初めての体験、新しい出会いの冒険の一日が始まります。

アンリ君の動物のとらえ方がとても興味深く、数をかぞえ始める子ども達にもピッタリの絵本でしょう。

2人の会話から、お互いを思いやり合っている様子里、社会生活デビューから得る、人への寛容さの学びが思われます。読み聞かせにも読みやすい文章で、柔らかな挿絵が印象的です。学びの絵本として魅力的な一冊です。

徳間書店 ¥1,980 (税込み)

○ひき石と24丁のとうふ

大西暢夫 // 作
【小学校低学年～】



「余分なものはない」「足るを知る」ことのいさぎよさや強さ、そしてさすがにさまでが伝わってくる本作品です。主人公小山田ミナさんの、豆腐作りの世界に、一気に引き込まれました。「一人の人として、やると決めたことをやるだけ」という、人間の強さや優しさも感じることができました。

写真家の大西暢夫さんが豆腐作りを一心に撮った写真からは、小山田さんの息づかいだけでなく、人生そのもののまが伝わってくるようです。見る人それぞれに感じるものがあると思います。

アリス館 ¥1,760 (税込み)